

## 第10回 本明川ダム建設事業 環境影響評価技術検討委員会 議事要旨

日時：平成29年3月6日（月） 14:00～16:00

場所：L&Lホテルセンリュウ 2F 宝竜の間（諫早市）

### 事務局からの説明

- ・現時点の事業進捗について報告した。
- ・本事業に係る環境保全の取り組み状況について報告した。
- ・事後調査計画書の内容について報告した。

### ○主な意見

#### 【水質】

- ・下流河川の濁水長期化の対策は、SSの低濃度層から取水する観点だけでなく、出水時に流入する高濃度の濁質を速やかに流下させるなど、貯水池のSSの低減に関わる方策なども検討してほしい。
- ・放流水質がダム下流河川に生息する動植物に影響を及ぼすことになるため、留意してほしい。

#### 【湿地・草地の環境の整備方針】

- ・持ち込む種は、できるだけ地域の種に限り、外部の種を持ち込まないように注意してほしい。
- ・維持管理を考える上では、整備箇所だけでなく、周囲の環境にも配慮する必要がある。
- ・遷移途上の環境であり、放置すると乾燥化・樹林化が進行するため、持続的な維持管理が重要である。
- ・対岸に整備予定の河川公園を含めた、自然環境保全と人の利用をゾーン区分するなど、この場所を一体的に活用することを検討してほしい。
- ・整備方針として、「多様な動植物が生息・生育できる場の創出」と「環境教育の場としての活用」が挙げられているが、これらはトレードオフの関係にもなり得るものであり、自然環境の保全を優先する場と人の利活用の場とを区分するなど、両者が共存できる整備を検討してほしい。
- ・維持管理は、頻繁に現地に対応できるよう周辺地域の方で管理してもらうのが理想である。
- ・維持管理を行うモチベーションを上げるためには、湿地・草地を定期的に利活用してもらうことが重要である。そのためには、広く情報発信するなど、利用の促進を図り、この場の価値を向上させるような方策を講じてほしい。

#### 【廃棄物】

- ・伐採木は、現地に存置すると昆虫類の生息場所ともなるので、活用策の1つとして検討してほしい。

### ○今後の予定

- ・本委員会は今年度で終了し次年度より、環境巡視結果等についてご審議を頂く「本明川ダム環境保全検討委員会（仮称）」を発足予定である。